

学会誌『東洋陶磁』執筆要項

〔使用言語〕 和文に限る

〔論文枚数〕 投稿規定に準じる

〔写真・図版〕 投稿規定に準じる（デジタル原稿〔解像度 300dpi 程度〕歓迎。但し、メール送稿はご遠慮下さい）

〔英文レジュメ〕 投稿規定に準じる（但し固有名詞（地名・人名・文献名等）にはルビを付すこと）

〔校正〕 著者校正は二回（初校は五泊六日、再校は二泊三日以内。原則として内容の変更・増減は認めない）

〔キーワード〕 和文・英文ともにキーワードを三〜五語程度付す

〔判形〕 A4正寸、原則縦組（三六字×二七行×二段。版面二四七ミリ×一六〇ミリ）とする。

〔献本〕 投稿規定に準じる

〔原稿〕 原則として返却しない

*デジタル入稿（テキスト・ワード）が望ましい（手書原稿も可）。デジタルデータはCD・USBメモリまたはメール送信でも良いが、打ち出し原稿二部を送付のこと。

〔形式〕 原則として縦書とする

〔文体〕 「である」体（文末の謝辞等は例外）

〔文字〕 原則として常用漢字とする

*固有名詞・慣用語・引用文・翻訳等はこの限りではない

*正体字・異体字の問題は学会側では強いて統一せず、執筆者の判断による

〔仮名遣い〕 現代仮名遣いとする

〔目次と章節の表記〕 各論文の冒頭に目次を載せる。章節の表記は〈例〉に従う

〈例〉 〔目次〕

はじめに

一 □□□□□□□□□□

二 □□□□□□□□

三 □□□□□□□□□□

四 □□□□□□□□

五 □□□□□□□□□□

〔キーワードの表記〕 目次と本文の間に載せる

〔数字の表記〕 縦書の場合原則として○を使った漢数字を使用

〈例〉 窯跡六三二基 破片一、〇二七点

*十を使った漢数字を使用する場合

〈例〉 月日 十二月三十一日

年号 昭和五十二年（一九七七）

世紀 十六世紀

世代 太宗十六世

*慣用語は適宜漢数字

〈例〉 百人一首 五百数十年

〔単位の表記〕

文章中ではキロ、メートル、センチ、ミリ、グラム、平方メートル

〔例〕 縦四〇・三センチ、幅二六一・七センチ 八二・九パーセント

*資料等では km cm mm g m²

〔例〕 縦四〇・三cm、幅二六一・七cm 八二・九%

〔引用〕

書名は『』、引用文は「」で示す

論文の場合は、所収の書名や雑誌名を『』、論文名を「」で示す

長文の引用は「」を付けず、改行して本文より二字下げの頭ソロエ

引用論文の執筆者には「先生、氏、博士」などの尊称は付けない

〔文献の表記〕

和文 編著者名「論文名」「書名」巻号数 頁 図 発行所 発行年

〔例〕 三上次男「九谷古窯の成立とその性格」『世界陶磁全集』9 一一五～一二五頁

小学館 一九八三

欧文 編著者名、論文名、書名(イタリック)、巻号数、頁、図、発行所、発行地、発行年

〔註の表記〕

註番号は本文行間に縦括弧、アラビア数字で示す (8) (9)

註は論文末にまとめる

著者が同じでも「同」は使わない

同一本や同一論文を再掲出する場合は、「前掲註*」で省略する

〔図表〕

各図版・写真・挿図に通し番号(図*)、各表に通し番号(表*)をつけ、各々に、

キャプション・出典等を記す

本文中にも図番号・表番号を()で示す (図*) (表*)

図版の掲載や利用で許可が必要な場合は執筆者が責任をもつ

*原稿の控をお手許にお取り置き下さい

*英文レジュメには日本語の要約もお付け下さい(タイトル・執筆者名も英文で表記)

英文レジュメ用邦文原稿の固有名詞(地名、人名、窯・遺跡名、文献名等)には必ず英文表記を付すこと

*横組掲載を希望される方は事務局までご連絡ください。

(平成三十年三月二十四日改訂)